

埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況 (平成26年度)

大島まり子 長谷川紀美子 山本徳栄 青木敦子

Performance of *Chlamydia trachomatis* serological examination in Saitama Prefecture
(April 2014- March 2015)

Mariko Ohshima, Kimiko Hasegawa, Norishige Yamamoto and Atsuko Aoki

はじめに

女性の約1.9倍であった。

性器クラミジア（以下、クラミジア）感染症は、*Chlamydia trachomatis*を原因とする感染症で、感染症法による五類感染症として定点からの報告が義務付けられている^{1,2)}。本県では「埼玉県エイズ及びその他の性感染症等対策要綱」に基づき、保健所で検査の受付を行い、当所で抗体検査を行っている。今回は、平成26年度におけるクラミジア抗体検査の実施状況を報告する。

対象及び方法

- 1 対象期間：平成26年4月～平成27年3月。
- 2 対象者：保健所で実施する「埼玉県エイズ及びその他の性感染症等対策要綱」による相談・検査受検者のうち、クラミジア抗体検査を希望した者。
- 3 検査方法：血清を用い、ELISA法（ヒタザイム クラミジア：日立化成工業）によりIgA及びIgG抗体を測定した。

結果判定は、各々の抗体に対する陽性及び陰性対照血清の測定値から算出したカットオフインデックスにより行い、IgA、IgGのいずれか、または、両者が陽性の場合に陽性検体とした。

結果及び考察

平成26年4月から平成27年3月までの受検者数は723名であり、受検者の年齢は16歳から94歳であった。

年代別・男女別の受検者数を表1に示した。受検者数が多かったのは、30歳代の255名（35.3%）及び20歳代の204名（28.2%）であり、これらを合わせると全受検者の約6割を占めていた。男女別では、16～19歳で男女が同数であったが、他の年代では男性が多かった。全体では、男性475名（65.7%）、女性248名（34.3%）で、男性は

表1 年代別・男女別受検者数

年齢(歳)	性別		計(%)
	男性	女性	
16～19	8	8	16 (2.2)
20～29	106	98	204 (28.2)
30～39	168	87	255 (35.3)
40～49	99	37	136 (18.8)
50～59	43	11	54 (7.5)
60～69	31	7	38 (5.3)
70～79	18	0	18 (2.5)
80～	2	0	2 (0.2)
合計	475 (65.7)	248 (34.3)	723 (100)

抗体別・男女別の検査結果を表2に示した。抗体陽性者は、109名（15.1%）であった。男女別陽性率は、男性9.7%（46/475）、女性25.4%（63/248）で、女性が高かった。抗体別陽性は、IgA陽性が3.0%、IgA・IgG陽性が5.7%、IgG陽性が6.4%と、IgGの陽性率は、IgAの2倍であった。各々男女別では、IgA陽性は男性3.0%、女性3.2%、IgA・IgG陽性は男性2.7%、女性11.3%、IgG陽性は男性4.0%、女性10.8%と、IgA陽性率はほぼ同率であったのに対し、IgA・IgG及びIgGの陽性率は、女性が高かった。

表2 抗体別・男女別検査結果

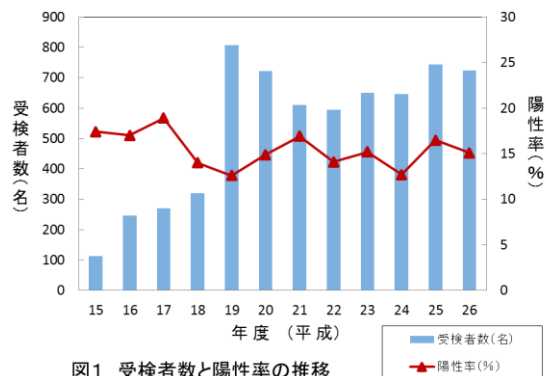
抗体別	性別		合計 (%)
	男性 (%)	女性 (%)	
IgA陽性	14 (3.0)	8 (3.2)	22 (3.0)
IgA・IgG陽性	13 (2.7)	28 (11.3)	41 (5.7)
IgG陽性	19 (4.0)	27 (10.8)	46 (6.4)
陽性小計	46 (9.7)	63 (25.4)	109 (15.1)
判定保留	18 (3.8)	7 (2.8)	25 (3.4)
陰性	411 (86.5)	178 (71.8)	589 (81.5)
合計	475 (100)	248 (100)	723 (100)

年代別抗体陽性数を表3に示した。年代別陽性率は、50歳代が20.4%（11/54）と最も高かったが、他の年代は、いずれも20%未満であった。

表3 年代別抗体陽性数
(平成26年4月～平成27年3月)

年齢(歳)	受検者数	抗体陽性数	陽性率(%)
16～19	16	2	12.5
20～29	204	30	14.7
30～39	255	36	14.1
40～49	136	25	18.4
50～59	54	11	20.4
60～69	38	3	7.9
70～79	18	2	11.1
80～	2	0	0
全体	723	109	15.1

埼玉県における平成15年度からのクラミジア抗体検査受検者数と陽性率の推移を図1に示した。受検者数は、平成19年度に急増した後は平成22年度まで緩やかに減少していたが、平成23年度以降700名前後である³⁾。また陽性率は、増減はあるものの15%前後を推移している。



クラミジア感染症の定点からの平成26年患者報告数は、全国で24,960名⁴⁾、埼玉県で1,566名⁵⁾であった。クラミジア感染症は、淋菌感染症・尖圭コンジローマ・性器ヘルペスウイルス感染症を含めた性感染症定点報告数のうち全国で50.8%⁴⁾、埼玉県で51.6%⁵⁾を占める最も多い性感染症である²⁾。しかし、クラミジア感染症は、分泌物など炎症症状が軽度で、感染を自覚されず、受診機会を欠くことによって感染状態が持続し、感染源となる場合が多い²⁾ことから蔓延防止対策として、検査の受診を推進し、早期発見、早期治療につなげることが重要である。

文献

- 1) 厚生労働省：性器クラミジア感染症。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen/shou11/01-05-31.html>
- 2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2011：性器クラミジア感染症. 日本性感染症会誌, 22, 14-18, 2011.
- 3) 大島まり子, 長谷川紀美子, 山本徳栄 他：埼玉県にお

ける性器クラミジア抗体検査の状況(平成25年度). 埼玉県衛生研究所報, 48, 54-55. 2014.

- 4) 厚生労働省：性感染症報告数。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>
- 5) 埼玉県衛生研究所感染症情報センター：感染症発生動向調査 月報. 2015年1月号.